

長者屋敷

むかし、むかし、あつただど。

礫つぼせの村に長者ちやうじやさま様が住んでいらつただど。それは、それは、大勢ほうこうにんの奉公人が居いて大変たいへん活気かつきがあり、日の出の勢せいいだったんだど。

ある時、一人の若者が来て、

「だんな様、どうか私を一年間使つてくなんしよ。給料はいらなから。秋になったら、背せ中に背負おえるだけの稲荷いなにを頂いたければ結構けつこうです。どうぞ、使つてやつてくなんしよ。」

と頼たのんだだど。

長者ちやうじやさま様は、大變たいへん欲よくの深い人だったので、給金きんはいらないうて言うし、背せ中に背負おえる分ぶんだけの稲荷いなにで、働いいでくれるんでは、損そんは無ないと計算けいさんして、一年間いちねんかんだけ働いてもらふこと